

---

## 1. 学歴

- 1994年 3月 明治大学政治経済学部経済学科卒業(経済学学士号取得)  
1994年 4月 一橋大学大学院経済学研究科博士前期課程入学  
1996年 3月 上記課程修了(経済学修士号取得)  
1996年 4月 一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程入学  
1997年 9月 Ph.D. course, Department of Economics, University of British Columbia  
(Vancouver, BC, Canada)入学  
2003年 11月 上記課程修了, Ph.D. (Economics) 取得

---

## 2. 職歴・研究歴

- 2002年 10月 - 2003年 12月 カナダ中央銀行 常勤研究員(Economist)  
2004年 1月 - 2007年 4月 カナダ中央銀行 上級研究員(Senior Analyst)  
2007年 5月 - 2008年 3月 東京大学大学院経済学研究科 寄付講座教員(助教)  
2008年 4月 - 2010年 3月 東京大学大学院経済学研究科 特任講師  
2010年 4月 - 2012年 3月 東京大学大学院経済学研究科 講師  
2012年 4月 - 2016年 3月 一橋大学大学院経済学研究科 准教授  
2013年 1月 - 2016年 12月 日本銀行金融研究所 客員研究員  
2016年 4月 - 現在 一橋大学大学院経済学研究科 教授  
2018年 4月 - 2019年 3月 早稲田大学政治経済学術院 客員教授  
2020年 7月 - 2021年 6月 三菱経済研究所 兼務研究員  
2021年 4月 - 2022年 3月 東京大学日本経済国際共同研究センター 客員教授

---

## 3. 学内教育活動

### A. 担当講義名

#### (a) 学部学生向け

金融ファイナンス BI・II

#### (b) 大学院

中級マクロ経済学, 上級マクロ経済学, ワークショップ(マクロ・金融)

### B. ゼミナール

学部後期, 大学院

### C. 講義およびゼミナールの指導方針

大学院の講義では, 経済主体の異時点間選択と期待形成の役割を重視したマクロ経済モデルを概説し, その理論的なインプリケーションを実証的に評価する。

学部の講義では、背後にある経済論理を明示し国際金融論を概説する。

大学院ゼミではマクロ経済学および国際金融の実証分析を主たる研究対象にする。ゼミでの指導方針は、(1) 経済学的に重要なファクトを計量経済学および時系列分析的手法を用いて定型化する、(2) 定型化されたファクトを説明する理論仮説を自ら構築しその仮説をデータで検証する、または(3) 既存の理論仮説の新しい実証方法の確立である。国際的な学術雑誌への投稿および出版を目指す。

学部ゼミでは世界的に広く読まれている英文教科書を輪読し、マクロ経済学のグローバルスタンダードを学ぶ。同時に毎回のゼミでは Financial Times, Wall Street Journal などの英字経済新聞の記事を要約し議論することを通じて、理論だけではなく、現実の世界経済における諸問題に対する積極的な態度を身につける。

---

## 4. 主な研究テーマ

- (1) 名目および実質為替レートモデルの理論・実証分析
- (2) 動学的確率的一般均衡モデルの評価方法
- (3) 地域間価格差における輸送費用の役割に関する実証分析
- (4) 経常収支の異時点間モデルの実証分析

---

## 5. 研究活動

### A. 業績

#### (a) 著書・編著

『現代経済学の潮流 2019』(宇井貴志, 原千秋, 渡部敏明と共編著), 東洋経済新報社, 2019年, 248頁。

『現代経済学の潮流 2020』(宇井貴志, 土井淳子, 西山慶彦と共編著), 東洋経済新報社, 2021年, 256頁。

『現代経済学の潮流 2021』(宇井貴志, 西山慶彦, 林正義と共編著), 東洋経済新報社, 2021年, 264頁。

『資産価格としての為替レート: 近年為替レート分析の諸相』, 三菱経済研究所, 2022年3月, 149頁。

#### (b) 論文(査読つき論文には\*)

\*「経済統合と価格の国際的連関: 東アジアを例として」(福田慎一氏との共著)『三田学会雑誌』, 90(2), 1997年, 209-234頁。

\*"International price linkage within a region: the case of East Asia," (joint with Shin-ichi Fukuda), *Journal of the Japanese and International Economies*, 11(4), 1997, pp.643-666.

「インフレーションと経済成長」浅子和美・大瀧雅之の編『現代マクロ経済動学』第5章, 1997年, 東京大学出版会。

"Terms of trade and current account fluctuations: evidence from Canada," (joint with Hafeedh Bouakez), in *Canada in the Global Economy: proceedings of the 13th annual economic conference of the Bank of Canada*, 2005, the Bank of Canada.

"The Euro and trade: is there a positive effect?," (joint with Tamara Gomes, Chris Graham, John Helliwell, John Murray, Larry Schembri), *mimeo*, August 2006, the Bank of Canada.

\*"Learning-by-doing or habit formation?," (joint with Hafeedh Bouakez), *Review of Economic Dynamics*, 9(3), 2006, pp.508-542.

\*"Terms of trade and current account fluctuations: the Harberger - Laursen - Metzler effect revisited," (joint with Hafeedh Bouakez), *Journal of Macroeconomics*, 30(1), 2008, pp.260-281.

\*"A structural VAR approach to the intertemporal model of the current account," *Journal of International Money*

*and Finance*, 27(5), 2008, pp.757-779.

- \*"Tests of the present-value model of the current account: a note," (joint with Hafeedh Bouakez), *Applied Economics Letters*, 16(12), 2009, pp.1215-1219.
- \*"Habit formation and the present-value model of the current account: yet another suspect," *Journal of International Economics*, 78(1), 2009, pp.72-85.
- \*"Exaggerated death of distance: revisiting distance effects on regional price dispersions," (with Kazuko Kano and Kazutaka Takechi), March 2013, *Journal of International Economics*, 90, 2013, pp.403-413.
- 「為替レートのランダムウォークネスとファンダメンタルズ: 動学的確率的一般均衡分析からの視点」, 全国銀行協会金融調査研究会, 2013.
- \*"Multilateral adjustments, regime switching, and real exchange rate dynamics," (with Jeannine Bailliu, Ali Dib, and Larry Schembri), *North American Journal of Economics and Finance*, 27, 2014, pp.68-87.
- \*"Business cycle implications of internal consumption habit for new Keynesian models," (with Jim Nason), *Journal of Money, Credit, and Banking*, 46, 2014, pp.519-554.
- 「マクロ計量分析における DSGE モデルの役割: 『最小解釈』の導入と応用」, 『日本統計学会和文誌』44(1), 2014, pp.159-187.
- \*"An equilibrium foundation of the Soros chart", (with Hiroshi Morita), the *Journal of the Japanese and International Economies*, 37, 2015, pp.21-42.
- "Price of distance: producer heterogeneity, pricing to market, and geographical barriers," (with Kazuko Kano and Kazutaka Takechi), RIETI Discussion Paper Series 15-E-017, Research Institute of Economy, Trade, and Industry, February 2015.
- \*"The first arrow hitting the currency target: a long-run risk perspective," (with Kenji Wada), the *Journal of International Money and Finance*, 74, 2017, pp.337-352.
- 「実質為替レートと通貨体制: 1972 沖縄返還からの示唆」(加納和子氏との共著), 日本経済学会編『現代経済学の潮流 2018』, 2018, pp.93-182.
- \*"Exchange rates and fundamentals: a general equilibrium exploration," *the Journal of Money, Credit, and Banking*, 53, 2021, pp. 95-117.
- "Trend inflation and exchange rate dynamics: a New Keynesian approach," Hitotsubashi Institute for Advanced study Discussion Paper Series E-38, February 2021.
- "Welfare costs of exchange rate fluctuations: evidence from the 1972 Okinawa reversion," Hitotsubashi Institute for Advanced study Discussion Paper Series E-114, November 2021.
- \*"The price of distance: pricing-to-market and geographic barriers," *the Journal of Economic Geography*, 22, 2022, pp.873-899.

#### (d) その他

- 「実質為替レートと通貨体制: 1972 年沖縄返還からの示唆」, 日本経済新聞夕刊, 2019 年 1 月 30 日.
- 「円の実力をどうみるか(中): 購買力低下, 賃金停滞が誘因」, 経済教室, 日本経済新聞朝刊, 2022 年 1 月 26 日.
- 「千思万考: 通貨体制と経済厚生: 1972 年沖縄本土復帰からの学び ① 戦後琉球・沖縄の通貨体制の変遷と国際金融論上の意義」, 『経済の進路』, 三菱経済研究所, 2022 年 10 月, No.727, pp.21-22.
- 「千思万考: 通貨体制と経済厚生: 1972 年沖縄本土復帰からの学び ② 小売価格の硬直性と経済厚生」, 『経

済の進路』, 三菱経済研究所, 2022年11月, No.728, pp.21-22.

「千思万考:通貨体制と経済厚生:1972年沖縄本土復帰からの学び ③ 為替レート変動の経済厚生への影響」, 『経済の進路』, 三菱経済研究所, 2022年12月, No.729, pp.21-22.

「千思万考:通貨体制と経済厚生:1972年沖縄本土復帰からの学び ④ 戦後沖縄経済史の重要性と希少性(その1)」, 『経済の進路』, 三菱経済研究所, 2023年1月, No.730, pp.21-22.

「千思万考:通貨体制と経済厚生:1972年沖縄本土復帰からの学び ⑤ 戦後沖縄経済史の重要性と希少性(その2)」, 『経済の進路』, 三菱経済研究所, 2023年2月, No.731, pp.21-22.

「千思万考:通貨体制と経済厚生:1972年沖縄本土復帰からの学び ⑥ 実証分析の結果とその意義」, 『経済の進路』, 三菱経済研究所, 2023年3月, No.731, pp.21-22.

## B. 最近の研究活動

### (a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には\*)

Canadian Economic Association Meetings, McGill University, Montreal, Canada, 2018年6月2日.

EcoMod2018, Department of Economics, Ca' Foscari University of Venice, Venice, Italy, 2018年7月5日.

71st European Meeting of the Econometric Society, University of Cologne, Cologne, Germany, 2018年8月28日.

\*第5回政策フォーラム, 一橋大学社会科学高等研究院, 2018年12月3日.

1st Australasian Conference of International Macroeconomics, Auckland, New Zealand, 2019年2月22日.

Canadian Economic Association Meetings, Banff, Canada, 2019年6月1日.

North American Summer Meetings of Econometric Society, University of Washington, Seattle, United States, 2019年6月30日.

5th Hitotsubashi Summer Institute, 一橋大学社会科学高等研究院, 2019年8月5日.

72nd European Meeting of the Econometric Society, University of Manchester, Manchester, United Kingdom, 2019年8月29日.

\*School of Economics and Managements, Tsinghua University, Beijing, China, 2019年10月24日.

12th International Conference on Computational and Financial Econometrics, Senate House, University of London, London, the United Kingdom, 2019年12月15日.

第23回マクロコンファレンス, 東京大学, 2021年12月12日.

28th International Conference of the Society for Computational Economics (CEF 2022), Southern Methodist University, Dallas, United States, 2022年6月12日.

14th International Conference on Computational and Financial Econometrics, King's College London, London, the United Kingdom, 2022年12月18日.

### (b) 国内研究プロジェクト

「為替レート変動の構造・均衡分析:マクロとマイクロデータからの包括的アプローチ」, 科学研究費補助金基盤研究(B), 研究代表者, 2017 - 2022年度.

「新たなマクロ計量モデルの構築と大規模データを用いた経済予測への応用」, 科学研究費補助金基盤研究(A), 研究分担者, 2017 - 2019年度.

「大規模・高頻度データを用いた資産価格変動のリスクと景気循環の計量分析」, 科学研究費補助金基盤研究(A), 研究分担者, 2020 - 2022年度.

### (c) 国際研究プロジェクト

「グローバル化によるリスクの高まりとマクロ経済政策」, 一橋大学社会科学高等研究院グローバル経済研究センター, 研究分担者, 2022 年度一.

---

## 6. 学内行政

### (a) 役員・部局長・評議員等

教育研究評議員(2019 年 4 月 - 2021 年 3 月)

### (b) 学内委員会

国際交流委員会(2022 年 4 月 -2024 年 3 月)

### (c) 課外活動顧問

一橋大学陸上競技部部長

---

## 7. 学外活動

### (a) 他大学講師等

財務省財務総合政策研究所, 財政経済理論研修講師, 上級マクロ経済学(2018, 2019, 2020, 2021, 2022 年度)

### (b) 所属学会および学術活動

日本経済学会

日本国際経済学会

アメリカ経済学会

エコノメトリック・ソサエティー

カナダ経済学会

Centre for Applied Macroeconomic Analysis, オーストラリア国立大学, リサーチフェロー, (2013 年 - )

東京経済センター 理事 (2014 年 4 月 - 2016 年 3 月)

日本経済学会,「現代経済学の潮流」, 編集委員 (2019 - 2021 年度)

### (d) 高校生向けの出張講義・模擬講義

出張講義(千葉県立千葉東高等学校), 2019 年 11 月 25 日.

---

## 8. 官公庁各種審議会・委員会等における活動

財務省, 輸出入申告データを活用した共同研究に関する有識者会議委員, 2021 年 9 月 - 2024 年 6 月.